

ウォータースタンド FUTURE REPORT 2026

【表紙】山口県にある中森農産株式会社の水田に続く道（画像提供：中森農産株式会社）

ウォータースタンド株式会社

埼玉県さいたま市大宮区桜木町 4-463

【お問合せ先】 0120-032-114 【企業情報サイト】 <https://waterstand.co.jp> 【サービスサイト】 <https://waterstand.jp>

WATER STAND

Water Stand Corporate Message

ウォータースタンド コーポレートメッセージ

今日よりもっと、清^すんだミライへ

GOAL

ウォータースタンドは
マイボトルを持ち歩く人のため、
2030年までに給水スタンドを
日本国内に10万台設置します。

MISSION

ウォータースタンドは未来の世代のために
より良い地球環境を引き継ぎます。
わたしたちは、2030年までに日本の
使い捨てプラスチックボトルを30億本減らします。

VISION

ウォータースタンドはマイボトルを携帯する
新しい文化を創り気候変動とプラスチックによる
環境問題に取り組みます。

ウォータースタンドレポート 2026 発行にあたって

ウォータースタンドFUTURE REPORT2026を手にとっていただきありがとうございます。

この度、6年にわたり発行してきたウォータースタンドレポートを、より良い未来を次世代に引き継ぐ意思を込めて「FUTURE REPORT」とタイトルを変更し発行することといたしました。これまでの報告年度に合わせたタイトルから、発行年度に合わせたタイトルに変更することで、未来を志向した弊社の計画や取り組みをすべてのステークホルダーの皆様と共有し、対話してまいります。

弊社の事業目的は、日々の暮らしにおけるお水に関するマイナス、『不』（不便・不足・不安）を浄水型ウォーターサーバー「ウォータースタンド」を通じてゼロにすることにとどまりません。

2025年度におけるトピックスの一つは、農業支援のスタートでした。弊社自身の持続可能性において豊かな水資源を維持することは最重要課題ですが、「お水」に限らず重要なライフラインである「お米」の取り組みを開始できたことは「今日よりもっと、清んだミライへ」を実現する具体的なアクションになりました。

気候変動による夏場の暑さや激甚化する気象は、熱中症などの健康被害に直結するだけでなく、農業の持続可能性においても危機となりえます。弊社は、未来を悲観するのではなく、ステークホルダーの皆様と手を取り合い、共創することで持続可能な未来を創造してまいります。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

報告方針

報告期間

当レポートの報告対象期間は2024年7月1日～ 2025年6月30日ですが、一部に2024年6月以前・2025年7月以降の活動内容を含みます。

サステナビリティ推進体制

弊社は、サステナビリティを事業運営の中核に位置づけ、経営の監督のもと、関係部門が連携して取り組みを推進しています。重要課題（マテリアリティ）に基づき、目標設定、施策実行、進捗管理、情報開示を一体で運用し、改善を継続します。

体制のポイント

- 経営の監督：重要課題・目標・優先順位を経営として確認し、方針を決定
- 主管部門によるESGの推進：全体設計と社内横断の推進を担う
- 各部門の実行責任：品質管理、顧客サービス、調達、人財、安全衛生、情報管理などの担当部門が管理と改善を実施
- 開示と検証：社内レビューを経て開示

サステナビリティ活動における重要トピックス

報告期間において、給水を起点とした行動変容の社会実装を進めるとともに、品質・環境・開示の基盤強化に注力しました。

トピックス① 「ボトルフリープロジェクト」の社会実装を拡大

自治体・学校・企業等との連携を通じて、マイボトル用給水機の設置と啓発を推進し、使い捨てプラスチック削減と水分補給環境の向上に取り組みました。

トピックス② 品質・安全に関する説明力を強化

浄水性能・試験条件の明確化、定量下限値の考え方、PFAS等の関心が高いテーマについて、誤解が生じにくい表現と情報整理を進めました。

トピックス③ サステナビリティ情報の開示基盤を整備

マテリアリティごとに「果たすべき使命・重点方針・重点テーマ・実績（KPI）」を整理し、ステークホルダーとの対話の基盤整備を進めました。

Top Message



周旋力で、 現実を動かす

▲埼玉大学 寄付講座での登壇

代表取締役社長 **本多 均**

「自分たちにできること」から始めた挑戦

私たちは2018年、海洋プラスチック問題と向き合い、「自分たちに何ができるのか」を問い直しました。レジ袋やストローは減らせなくても、使い捨てプラスチックボトルなら減らせる。そうした“気づき”から、浄水型ウォーターサーバー「ウォータースタンド」事業へと舵を切りました。しかし、使い捨てプラスチックボトル30億本削減というミッションは、1社だけで成し遂げられるものではありません。

変化を恐れず、挑み続けるという経営姿勢

「朝令暮改は優柔不断に勝る」
「二兎追わない者は一兎も得ず」

これは、私たちウォータースタンド株式会社の社訓であり、経営の現場で繰り返し確かめてきた実感です。

変化の激しい時代において、立ち止まらないこと、試し、修正し、また挑むことこそが、結果として社会課題の解決に近づく最短距離だと考えています。

社会を動かす鍵としての「周旋力」

そこで私たちが最も大切にしてきたのが、「周旋力」です。競争相手、自治体、企業、学校、地域住民——立場の違いを越え、共通の目的のもとで人と人をつなぎ、行動を生み出す力です。小売・交通事業者、離島地域との協働、さらには教育現場での環境学習支援まで、私たちの取り組みは常にパートナーシップとともにありました。

「周旋力」で、持続可能な未来へ

挑戦を重ねる中で、失敗や修正もありました。それでも朝令暮改を恐れず、二兎を追いつけたからこそ、給水スポットの社会実装や、新たな地域課題への挑戦へと道が開けたのだと思います。

誰もがアクセスできる水道インフラを活用する「ウォータースタンド」は、環境に直結しており、地域、さらには地球へとつながっています。

これからも私たちは、多くの仲間とともに、周旋力をもって現実を動かし、持続可能な社会を創り続けてまいります。

ライフラインである「水」に関わる企業として

「自分たちにできること」から始めた挑戦

国連大学 水・環境・保健研究所 (UNU-INWEH) は、2026年1月、『Global Water Bankruptcy』において世界がすでに「水破産 (Global Water Bankruptcy)」の時代に入ると宣言しました。

この事態を、弊社は極めて深刻な経営課題として受け止め、この地球規模の危機に対し、水資源の持続可能性を確保するための取り組みをさらに加速させることを誓います。

弊社はこれまで、使い捨てプラスチックボトル削減を通じてプラスチック汚染の抑止に注力してきました。しかし、私たちの事業の根幹を支えているのは「安全で清浄な水」そのものです。

環境破壊や気候変動による水源の汚染や枯渇は、社会全体の脅威であると同時に、弊社の事業継続を脅かす最大の「経営リスク」です。良質な水質を将来にわたって担保するためには、自然の自浄作用を支える豊かな生物多様性の維持が不可欠です。健全な生態系を守り、水資源の適切な維持管理に貢献することは、環境保全のみならず、私たちのビジネスリスクを低減するための重要な経営戦略です。

私たちは、プラスチック削減の枠を超え、水源地を守る活動や水循環の再生に深く関与してまいります。尊い共有財産である水資源を守り抜き、次世代へと引き継ぐために、全力を尽くす所存です。

ロードマップ変更の宣言

弊社は2030年までに「使い捨てプラスチックボトル30億本削減」をミッションに掲げ、達成に向けて邁進しています。削減本数は、浄水型ウォーターサーバー「ウォータースタンド」の設置台数から推計し、下記の行動計画の下、多くのステークホルダーの皆さんとのパートナーシップにより達成を見込んでまいりました。

(年度)	レンタル契約 設置台数	年間使い捨て プラスチックボトル削減本数	給水スタンド 設置台数
2024	21万台	11.1億本	3,175台
2025	26万台	15.3億本	3,906台
2026	31万台	18.5億本	5,294台

これまで、弊社では「ウォータースタンド」が約50万台設置されると、使い捨てプラスチックボトルが約30億本削減できると試算していました。

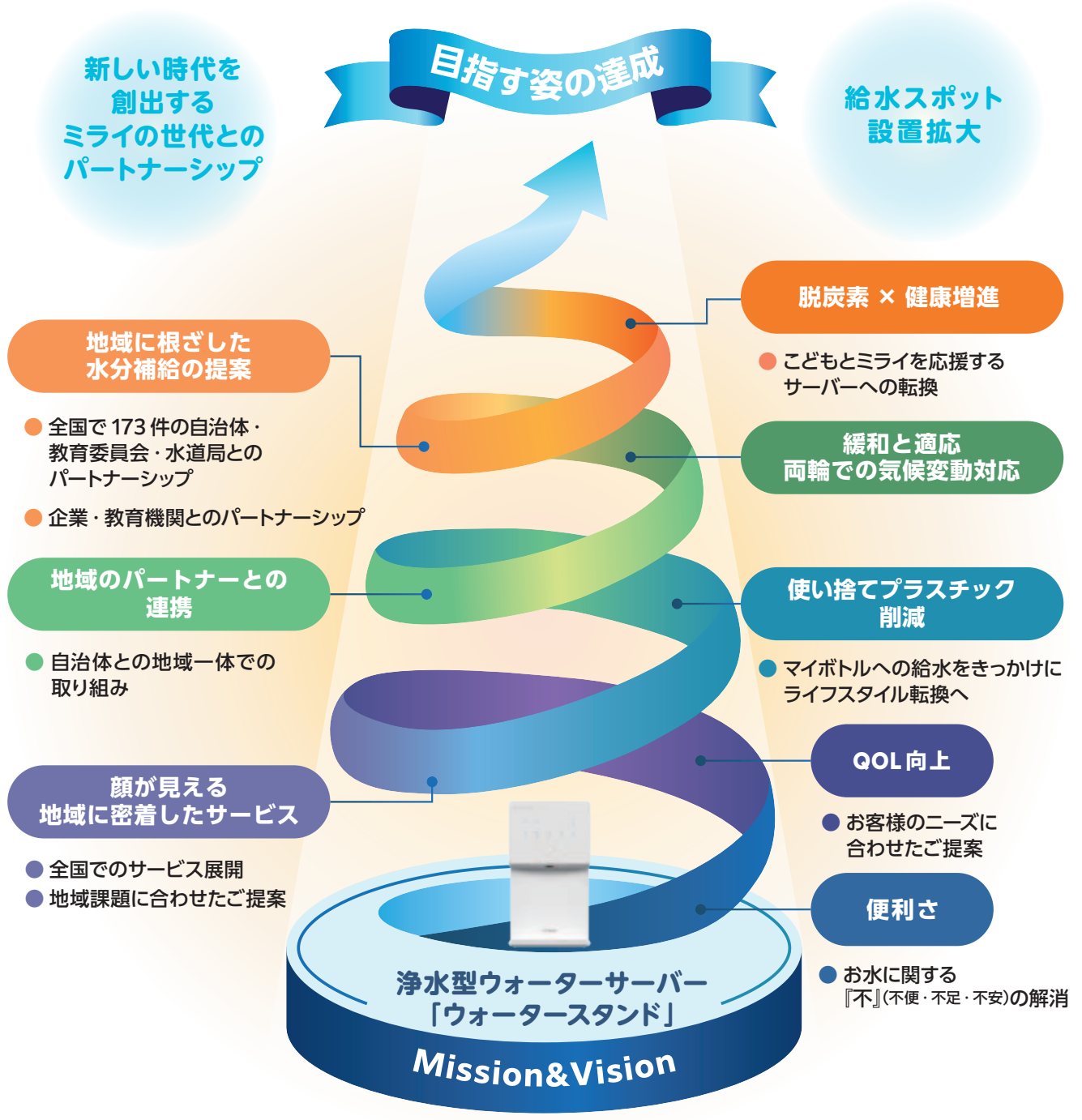
しかし、熱中症ゼロと使い捨てプラスチック削減の両立を目指すためには、**外出時に携帯するマイボトルへの給水が可能な環境を創出し、多くの方と共創しなければ達成できない**という結論に至りました。上述の通り、世界的な環境問題は待ったなしの状況にあります。夏の暑さは激甚化しており、私たちが貢献すべき環境問題はプラスチック汚染だけでなく気候変動による地球温暖化に起因する熱中症回避など、他の課題にも目を向けていかねばならない状況にあります。

こうした現状を鑑み、弊社は誰もが給水できる「給水スタンド」設置台数10万台をゴールとし、2026年7月からはKPIとして設定し、ここにロードマップの変更を行うことを宣言いたします。

ウォータースタンドが 創造する価値

ウォータースタンドが実現する ハピネスの全体像

ウォータースタンドは、お水を通じたハピネスのご提供と環境負荷の低減を、事業の両輪として運営してまいりました。



Mission ウォータースタンドは未来の世代のためにより良い地球環境を引き継ぎます。わたしたちは、2030年までに日本の使い捨てプラスチックボトルを30億本減らします。

Vision ウォータースタンドはマイボトルを携帯する新しい文化を創り気候変動とプラスチックによる環境問題に取り組みます。

ウォータースタンドで実現する ハピネスの事例

ウォータースタンドは浄水型ウォーターサーバーのレンタル事業にとどまらず、多様なパートナーと協力し、マイボトルを持ち歩く文化の創出に向けた取り組みを行っています。



今もミライも、事業を通じて 次世代により良い環境をつなぐ

浄水型ウォーターサーバー「ウォータースタンド」の特徴

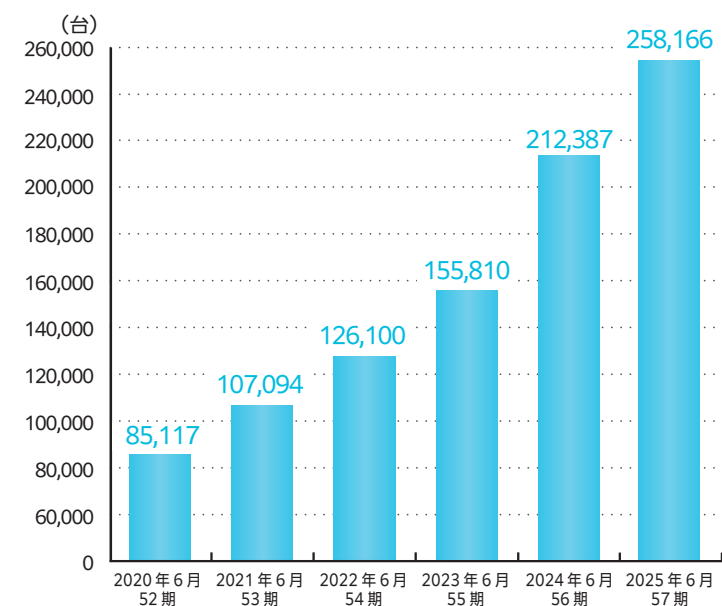
「ウォータースタンド」は、誰もがアクセスできる社会インフラである水道水を活用することでプラスチックボトルを運ばない・捨てないウォーターサーバーです。

ご利用に際しては、初回設置費・撤去費などの作業実費以外の初期コストはなく、月額定額制となっています。

「ウォータースタンド」は給水型と水道直結（自動給水）の2タイプがあり、お客様ご自身でフィルターを交換いただくセルフメンテナンスと、弊社専門スタッフの訪問による定期メンテナンスで、お水のおいしさを保っています。

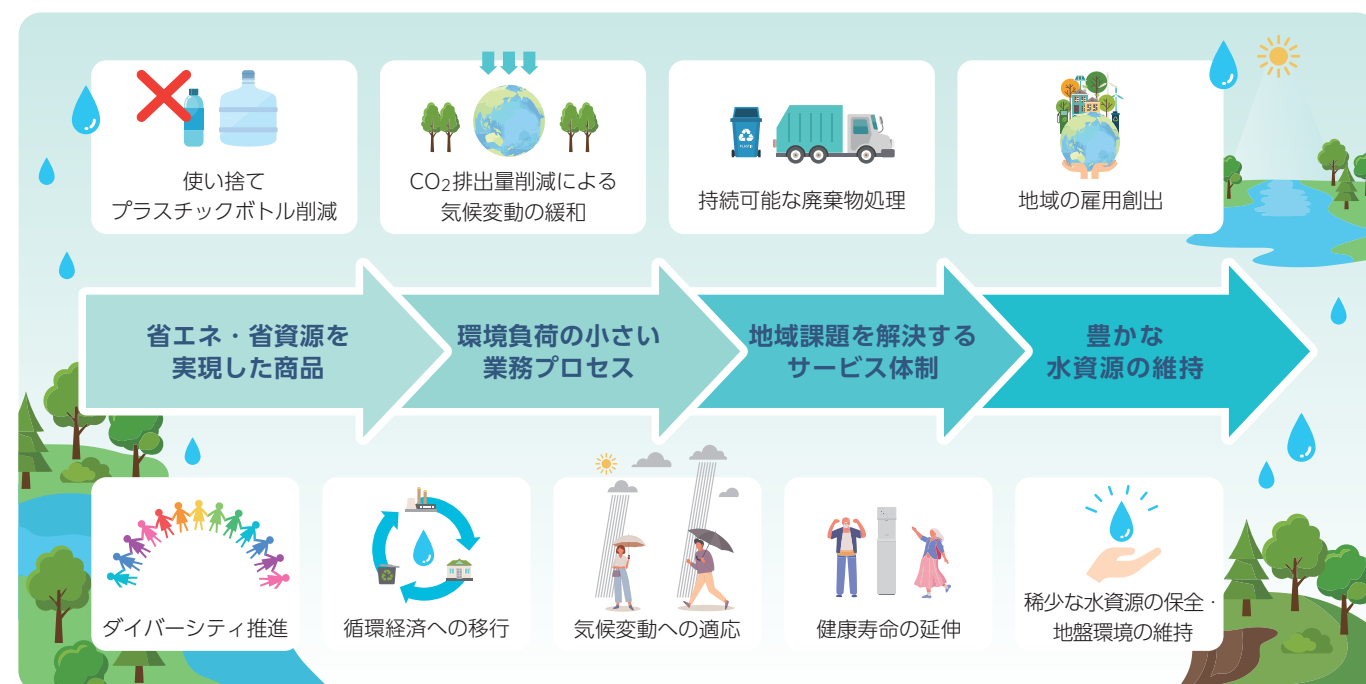
10タイプ以上の機種をご用意し、用途や設置環境に合わせて最適な機種のご提案をしています。

「ウォータースタンド」累計設置台数6期比較



ウォータースタンドが解決したい社会課題

「ウォータースタンド」事業は、日本の水資源が保全されて初めて成り立つものです。私たち自身が持続可能な事業運営を行うことが、豊かな水資源の維持につながります。



ミライの世に豊かな水資源を引き継ぐ経営

私たちの生活に欠かせない「お水」は、飲料などに活用できる形では地球上に0.01%しかないといわれる稀少な資源です。

豊かな水資源をミライの世に継承することを目指すウォータースタンドは、地球温暖化や海洋プラスチック汚染などの環境問題に取り組みます。弊社は水資源の循環に関わる一員として、事業活動による環境負荷の軽減や持続可能な事業運営を意識したビジネスモデルの充実を実現します。



価値創造に向けた基本戦略



「ボトルフリープロジェクト」の 社会実装を拡大

生活動線に「マイボトル用給水機のある暮らし」への一歩

水分補給は、健康の基盤です。猛暑が常態化する中で、誰もが無理なく水にアクセスできる環境を整えることは、生活の安心につながります。弊社は、給水を起点に、使い捨てを減らす行動と、熱中症予防などの適応行動を同時に後押しします。企業・自治体・教育現場との共創により、ボトルフリーを“当たり前のインフラ”へ変えてまいります。

阪急電鉄12駅での給水機設置

2025年12月1日から、阪急電鉄の主要8駅にマイボトル用給水機として浄水型ウォーターサーバー「ウォータースタンド」が新たに設置されました。

2022年9月から11月までの約2か月間、NATS 4市（西宮市・尼崎市・豊中市・吹田市）及び弊社は、阪急電鉄株式会社の協力の下、マイボトルの利用促進及びプラスチックごみの削減を目的として、阪急電鉄の西宮北口駅（西宮市）・園田駅（尼崎市）・岡町駅（豊中市）・北千里駅（吹田市）4駅の構内にマイボトル専用の給水機設置における実証実験を行いました。

2023年4月からは阪急電鉄により同4駅に本格設置され、2025年12月から、神戸三宮駅・川西能勢口駅・宝塚駅・桂駅・京都河原町駅・高槻市駅・大阪梅田駅・茨木市駅の8駅に追加設置されました。



阪急電鉄の各駅に設置されたマイボトル用給水機（左から神戸三宮駅・川西能勢口駅・宝塚駅・桂駅・京都河原町駅・高槻市駅・大阪梅田駅・茨木市駅）

京都市Park-UP事業でのコンビニエンスストアへの給水機設置

2024年11月29日に、京都市の「Park-UP事業*」を活用する第1号の公園として、北鍵屋公園内に地域交流施設とコンビニエンスストアがオープンしました。

公園内のコンビニエンスストア（セブン-イレブン伏見北鍵屋公園店）と、セブン-イレブン西院駅南店には、弊社の「ウォータースタンド」が給水スポットとして設置されています。

「ウォータースタンド」は、京都市の「給水スポット」として情報公開されており、どなたでも外出時の給水に活用いただけます。給水スポットの設置は、弊社が京都市と2020年1月に締結した「マイボトル等で利用できる給水スポットの拡大に関する連携協定」に基づくものです。

*「Park-UP事業」とは
地域主体の柔軟な管理運営を、民間企業等の多様なサポート団体が支援することにより、公園の魅力向上、地域コミュニティの活性化などを目指す、京都市が創設した公園運営モデル。地域課題の解決や価値向上に寄与することを目的とした事業。



二次元コード付きマイボトル用給水機

近年、多くの先進企業でプラスチックカップやペットボトル利用を見直し、CO₂排出量削減と、従業員様の環境への関心・意識の醸成・行動変容を促進するプログラムとしてマイボトル活動が実施されています。

弊社は、マイボトル用給水機設置を拡大するべく、初期設置費用・月額レンタル費用無料で二次元コードからの決済が可能な新プランをリリースし、施設や企業におけるマイボトル活動をアシストしています。

導入手順



設置イメージ

非日常から気づきが生まれる「マイボトル用給水機のあるサステナブルな旅」 ホテル全客室への給水機設置

宿泊施設での給水環境整備は、使い捨てプラスチック削減だけでなく、滞在中の水分補給を自然に促す取り組みでもあります。たとえば、ホテルの共用部に給水機を設置し、マイボトルの利用を案内することで、宿泊者が「持ち歩く」「補給する」行動を無理なく体験できます。



株式会社クラブメッド様

オールインクルーシブ・リゾートのパイオニアであるクラブメッドは、1950年の創業以来、人々のつながりや自然との調和を大切にしてきました。持続可能な観光を目指す「Happy to Care」プログラムを実践し、プラスチックの削減やゲスト体験の向上に向けた取り組みを進めています。



野村不動産ホテルズ株式会社
ノーガホテル 清水 京都様

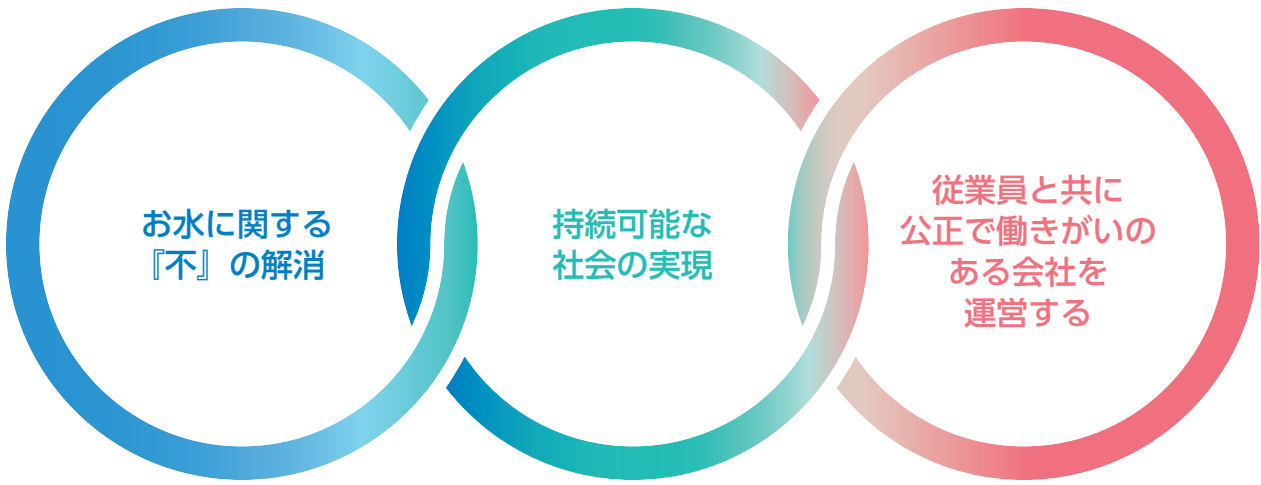
地球に優しいホテルづくりを推進しており、2025年8月に、電力不要の「メイト2」を全客室に導入されました。プラスチック削減とゲスト満足度の両立を図った環境配慮型のホスピタリティが、国内外のお客様から高く評価されています。



株式会社日建ホテルマネジメント様

「暮らすように泊まる」パッケージレンタル型リゾートのフェリスヴィラスイートは、滞在いただいたからこそ「体験」をご提供されています。滞在価値向上の一環として「ウォータースタンド」を導入されました。

マテリアリティ



ウォータースタンドの存在意義は、「お水に関する『不』を解消し、健康で快適な生活に寄与しながら持続可能な社会を創出すること」です。

この使命を持続可能なものにするために、取り組むべき課題をマテリアリティとして整理し、これまでとこれからの取り組みをまとめました。

弊社にとってサステナビリティとは、社会とともに持続可能な成長を遂げることです。これからも持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。

ウォータースタンドのマテリアリティ

マテリアリティ重要課題	ステークホルダーと共有する価値
お水に関する『不』（不便・不足・不安）の解消	使い捨てプラスチックの削減
	CO ₂ 排出抑制による地球温暖化の緩和
	水分補給による熱中症などの健康被害の抑止
	日本の水道事業の課題解決に向けた貢献
	脱炭素に向けたサステナブルなライフスタイルの提案
安心して利用できるお水の提供	地域担当によるコンサルティング
	お客様の生活動線に添う最適な設置場所のご提案
	お客様ニーズに合った機種のご提案
	サプライヤーとのパートナーシップによる高品質な商品のご提供
	生活を豊かにするお水の活用法のご提案
環境に配慮した事業の推進	業務プロセスにおけるエネルギー・CO ₂ 排出の抑制
	商品ご使用時のエネルギー・CO ₂ 排出の抑制
	商品ライフサイクル・業務プロセスにおける資源循環
公平公正な取引と業務の遂行	社会の公器としての責任遂行と社会価値の創出
地域社会への貢献	地域との価値共創
働きがいのある環境づくりとダイバーシティの推進	自身と会社の成長を同時に実感できる場の創出
持続的・安定的に成長する企業運営	持続可能な成長による社会価値の提供

重要課題の更新プロセス

社会課題と事業の接点は、外部環境やステークホルダーの期待により変化します。弊社は、課題の重要度と事業への影響を定期的に点検し、重点領域を更新するプロセスを運用します。経営による判断を現場に実装し、結果を開示し、ステークホルダーの皆様との対話を通じて学習するプロセスを継続することにより、取り組みの質を高めます。



暮らしと社会の基盤を支える 水の価値・体験の向上

日々の水分補給は健康・学習・仕事の基盤です。弊社は「お水に関する『不』（不便・不足・不安）の解消」「おいしいお水の提供」を重要課題として位置づけ、品質・安全・使いやすさを継続的に改善します。

果たすべき使命	重点方針	重点テーマ
誰もが安心して利用できる水にアクセス可能な社会を実現し、使い捨てプラスチック削減を通じて地球環境への負荷を低減すること。	浄水型ウォーターサーバーとマイボトル文化の普及により、使い捨てプラスチックボトルを削減し、気候変動に対する緩和と適応を両輪で推進する。	使い捨てプラスチックボトル削減・マイボトル活用の推進を、自治体・教育機関をはじめとする多様なステークホルダーとの連携により促進し、知ることと実践を統合する。

実績

	2024 年 6 月期	2025 年 6 月期	2026 年 6 月期
協定締結事例数	90	128	173
「ウォータースタンド」設置台数	212,387 台	258,166 台	312,648 台

お水に関する『不』（不便・不足・不安）の解消

- ・ 使い捨てプラスチックの削減
- ・ CO₂排出抑制による地球温暖化の緩和
- ・ 水分補給による熱中症などの健康被害の抑止
- ・ 日本の水道事業の課題解決に向けた貢献
- ・ 脱炭素に向けたサステナブルなライフスタイルの提案

おいしいお水の提供

- ・ 地域担当によるコンサルティング
- ・ お客様の生活動線に添う最適な設置場所のご提案
- ・ お客様ニーズに合った機種のご提案
- ・ サプライヤーとのパートナーシップによる高品質な商品のご提供
- ・ 生活を豊かにするお水の活用法のご提案

持続可能な
社会の実現環境マネジメントの全体設計
方針・認証・目標

環境配慮は事業運営の前提条件です。弊社は環境方針を基軸に、法令・条例を順守するとともに、環境影響の把握に努め、外部と目標を共有し事業における環境負荷軽減を実現します。

環境方針

ウォータースタンド株式会社は「ミッションとビジョン」のもと、より良い地球環境を未来の世代に残すため、持続可能な社会の構築に貢献します。事業を通じ、「ミッション」の達成と「ビジョン」の具現化を目指し、経営者から担当者までの全員が地球環境保護の重要性を認識し、環境方針を実践します。

地球環境保護を推進するために、全社員に対し教育・訓練を実施し、継続的改善に努めます。また、取引先等に対し理解と協力を図ります。事業におけるサービスの継続的な改善により省資源に努め、地球環境への負荷の軽減を図ります。資源の有効利用への取組みを、顧客・取引先など利害関係者と協力して推進します。環境に係わる法規制及びその他の要求事項を順守します。環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善することにより環境との調和や生物多様性の保全、汚染の予防に努めます。環境保護活動の推進は、環境目的・目標を設定し、定期的に見直しを実施します。環境方針は、文書化し、全社員及び利害関係者に周知し、一般にも公開します。当社は、社員に必要な教育訓練を行い、環境意識が高く、環境保護を実践できる人材を育成します。

制定 2012年3月1日

改訂 2020年7月1日

ウォータースタンド株式会社
代表取締役社長 本多 均

環境性能の追求



「ウォータースタンド」は、環境負荷の高いフロンガスを使用しない冷却方法の採用をはじめ、節電・省エネ設計にこだわった製品です。「ウォータースタンド」のサプライヤーであるCoway社は、環境性能向上のため2020年から温水・冷水機のエネルギー効率向上プログラムを韓国適合性試験所(KCL)と共同で開発する国家プロジェクトを実施、2021年3月に世界で初めてプログラムの開発に成功しています。

果たすべき使命



弊社は、お客様に「ウォータースタンド」を安心してご使用いただくために、使用期間だけでなく使用を終えた後の機器の再生・廃棄処分を含めて環境負荷の低い方法を模索し、より良い管理を目指します。

機器本体の長寿命化を実現するだけでなく、使用可能な部品を再利用するなど、廃棄物を削減し限りある資源を有効活用することは弊社の果たすべき社会的責任です。

環境に配慮した事業の推進

- ・業務プロセスにおけるエネルギー・CO₂排出の抑制
- ・商品ご使用時のエネルギー・CO₂排出の抑制
- ・商品ライフサイクル・業務プロセスにおける資源循環

従業員と共に
公正で働きがいの
ある会社を
運営する

人的資本

品質を支えるのは、現場の技術と対話力です。弊社は、人材育成と安全衛生、ハラスメント防止、多様な働き方の整備を通じて、安心して力を発揮できる環境を整えます。2025年度は研修や体制整備を進め、現場の対応品質の底上げに取り組みました。

果たすべき使命



事業の持続的成長は、人材の成長と活躍なくしては実現できません。

弊社は、従業員に対して、仕事の社会的意義を実感しながら物心両面で満たされ、一人ひとりの能力を最大限に発揮する環境を実現することを重要な責任と捉えています。

重点方針



弊社は、水と環境をめぐる社会課題の解決に取り組む企業として、その担い手である従業員一人ひとりが安心して働き、誇りを持って能力を発揮できる環境を整えること、多様な人材の活躍推進、学びと成長の支援を重要な方針としています。

職種・職域に関わらず全従業員を対象に業績や経営計画を共有する株主総会を毎年9月に開催し、同日に表彰式を挙行しています。

- ・スーパーフレックス制度
- ・従業員表彰制度
- ・従業員持株会制度
- ・ハラスメント相談室の設置

人材 KPI

安全衛生委員会
年間実施回数

12回

育児・介護休業法に
おける育児休業
(出産時育児休業・育児目的の
休暇を含む)の取得率

71.4%

(2025年6月期)

男女間賃金格差
【管理系】
女性賃金の男性比

98.3%

(2025年6月期)

健康診断の受診率

100%

(40歳・50歳において会社の費用負担で
PET検診受診を推奨)
(2025年6月期)

男女間賃金格差
【営業系】
女性賃金の男性比

93.6%

(2025年6月期)

有給休暇の取得率

51.1%

(2025年6月期)

出産した女性従業員の
仕事復帰1年後の
継続就業率

56%

(2023年休業者)

「埼玉県多様な働き方
実践企業認定制度」
多様な働き方実践企業

(2025年6月期)

働きがいのある環境づくりと
ダイバーシティの推進

- ・自身と会社の成長を同時に実感できる場の創出

マテリアリティ

従業員と共に
公正で働きがいの
ある会社を
運営する

信頼を積み上げる
環境・公正・成長基盤

弊社は、事業活動そのものに加え、環境への配慮、公正な事業運営、それらを支える強固な経営基盤が不可欠であると考えています。それぞれの領域において果たすべき使命を明確にし、重点方針に基づく取り組みを推進してまいります。

果たすべき使命



弊社は、すべての事業活動において法令・社会規範を遵守し、事業活動によって生じる環境負荷軽減に努め、高い倫理観に基づく公正で誠実な企業活動を徹底します。持続的な成長と社会的責任の両立を実現するため、変化に対応できる強固な経営基盤を構築する責任を果たします。

重点方針



弊社は、コンプライアンスの徹底、適正な取引の推進、リスク管理の強化、情報開示の充実を重点方針とします。不正や不適切な対応を未然に防ぐ体制を整備するとともに、説明責任を果たす経営を実践し、公正な事業運営を通じて信頼の維持・向上に努めます。

下記制度は、職種・職域に関わらず全従業員を対象に導入しています。

・就業規則に従業員が遵守すべき倫理規定を記載

・新入社員に対する研修・育成体制の構築

消費者志向自主宣言

【理念】

ウォータースタンド株式会社は、創業以来一貫して事業を通じた社会課題の解決に取り組み、社会・地域と価値を共創することで経済価値を向上させ、成長につなげてきました。私たちの理念を「コーポレートメッセージ」と、「ミッションとビジョン」として策定し、全社一丸となり、今後も社会にポジティブな影響を創出できるよう尽力してまいります。

【取り組み方針】

1. お客様起点で考える企業風土の醸成

経営のリーダーシップにより、全てのステークホルダーに配慮し行動する企業風土を醸成し、従業員への浸透を図ります。

2. お客様にとってわかりやすく安心できる情報の提供

お客様への情報提供においては、お客様への配慮を欠かさず、責任ある活動を行います。
お客様が知りたい情報やお客様の選択・使用に有益な情報をわかりやすく表示するよう努めます。
ホームページ等で、企業情報・製品情報に加え、品質・環境等に関するさまざまな取り組みについて公開します。

3. 社会の声の反映

ステークホルダーの皆様との双方向コミュニケーションに努めます。
お客様や社会の要望を受け止め、社内でも共有し、製品やサービスの開発・改善を行います。

4. 事業を通じた社会課題の解決

現在のお客様、そして未来の世代のために、地域・地球と共生し、事業を通じて気候変動やプラスチック循環などの社会課題の解決に取り組み、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。



持続的・安定的に成長する
企業運営

・持続可能な成長による社会価値の提供



地域社会への貢献

・地域との価値共創

透明性と
規律を持ち、
社会の公器としての
信頼に応える

ガバナンスとリスクマネジメント

弊社は、法令順守・公正取引・情報管理・事業継続などのリスクを俯瞰し、経営と現場をつなぐ統制の仕組みを整えます。単なる規程整備にとどめず、教育・点検・是正のサイクルを回し続けることを重視します。

果たすべき使命



弊社は、水と環境に関わる事業を担う企業として、社会的責任にふさわしい統治体制を整備するとともに、事業継続や信頼性に影響を与えるリスクを適切に管理し、持続的な価値提供に対する責任を果たします。

重点方針



弊社は、持続的な企業価値向上のため、取締役会の構成員数、女性管理職比率、財務状況の開示を行い、多様な視点を経営に反映しています。透明性の高い情報開示により、ステークホルダーの皆様との対話を行い、変化に強いリスク管理体制を構築します。

2026年中に高度なBCP(事業継続計画)を策定・完了させ、気候変動や災害などの予期せぬリスクに対するレジリエンス(適応力)を強化します。

成長基盤KPI

個人情報や機密情報に
関する適切な管理と
セキュリティ対策に
関する従業員への周知

100%

(2025年6月期)

デジタル化による
生産性向上に向けた
担当部署の設置

(2025年6月期)

ROE8%以上、
流動比率100%以上、売
上高成長率
($(\text{当期売上高} - \text{前期売上高}) / \text{前期売上高} \times 100$) が
前期比で向上

(2025年6月期)

経営直下の
従業員満足(ES)・
顧客満足(CS)
向上会議
年間12回開催



公平公正な取引と業務の遂行

・社会の公器としての責任遂行と社会価値の創出

Service quality サービス品質



レンタルサービス

●「ウォータースタンド」が解決する社会課題

政府は、家事・育児・介護に伴う負担の軽減を、離職防止や就業継続支援の観点から重要な政策課題と位置づけています。弊社が提供するボトルの配達や在庫、廃棄を必要としない浄水型ウォーターサーバー「ウォータースタンド」は、水の確保に伴う日常的な手間を軽減することで、家庭や職場における見えにくい負担の軽減に貢献しています。

また、「ウォータースタンド」は家庭だけでなく、職場や各種施設への設置も進んでいます。従来のボトル型飲料サービスや来客対応では、飲料の補充、在庫管理、ボトル交換、お茶出し等の業務が発生していました。

「ウォータースタンド」の導入は、こうした作業負担の軽減と業務の標準化を通じて、属人的・慣習的な役割分担の見直しを後押しし、生産性の向上とより公平な職場環境づくりに資するものです。

弊社は今後も、環境負荷低減に加え、暮らしや働く環境の質の向上に貢献するサービスの提供を通じて、持続可能な社会の実現を支えていきます。

お水の品質

●地域担当によるコンサルティング

「ウォータースタンド」設置の際は、地域の専門スタッフがお客様のご希望をお伺いし、機種や設置場所、設置方法についてご相談に応じます。

これまでの設置に関する豊富な知見を活かし、生活動線を勘案し、使いやすさを考慮したご提案を行うことが可能です。



●地域密着の技術とサポート

自動給水タイプの「ウォータースタンド」の取り付けと水栓からの分岐作業は、すべて専門的な技術トレーニングを経た地域担当スタッフが行います。万が一の故障やトラブルの際も全国47都道府県に71か所所在する営業所から、訪問・修理を行います。

「ウォータースタンド」はメンテナンスを行うことで長期にわたる使用が可能となるほか、お水の水質を保持することができます。

メンテナンス方法は弊社の地域担当スタッフが出向いて実施する「定期メンテナンス」と、簡単に交換可能なフィルターを定期的にお届けし、お客様ご自身でメンテナンスをしていただく「セルフメンテナンス」の2種類です。



給水装置工事
主任技術者※有資格者数

21名

(2025年6月末現在)



※給水装置工事主任技術者とは、水道法に基づき国土交通大臣及び環境大臣（令和5年度までは厚生労働大臣）が認定する国家資格です。
給水装置工事の技術水準の確保と、工事により設置された給水装置が構造材質基準に適合することを目的として、全国一律の国家試験により認定される資格となっています。

Quality 品質



商品品質

●浄水性能を支える2種類のフィルターシステム

弊社は、将来的な規制強化やグリーンウォッシュリスクを回避するための意図的なガバナンス判断に基づき、浄水性能の表示においてJISおよびJWPASの試験方法による共通基準を採用し、検出限界以下の結果については、数値を「定量下限値」として開示しています。



RO フィルター
システムの
詳しい仕組みはこちら



ナノトラップ™ フィルター
システムの
詳しい仕組みはこちら

「ウォータースタンド」は JIS・JWPAS 試験方法に準拠

試験方法	国家規格 (JIS S 3201/ JWPAS B.210)	比較可能性	他製品と比較可能
原水条件	規定あり	表示の誠実性	測定事実のみ表示
通水量	規定あり	規制耐性	高い
測定方法	明確（定量下限値を定義）	ESG 評価	ガバナンス上の責任を遂行
結果表記	ND（定量下限値以下）		

非 JIS・
独自基準の場合

【試験方法】メーカー独自／非公開 【原水条件】任意設定 【通水量】任意 【測定方法】定義が不明な場合あり
【結果表記】99.9%除去など 【比較可能性】比較困難 【表示の誠実性】推定・誇張を含む可能性
【規制耐性】将来リスクあり 【ESG評価】グリーンウォッシュ懸念

安全と環境負荷軽減へのこだわり

●安全性と操作性へのこだわり

「ウォータースタンド」のサプライヤーであるCoway社は人間工学に基づき使いやすさを追究しています。

また、温水抽出時の安全性を高めるためにチャイルドロックなどの機能面での充実も図っています。安全性能の向上に向けて、同社は11の認定ラボを運営し、国内外の動向や認証規制に迅速に対応しています。ノルウェーの安全試験所であるNorges Elektriske Materiellekontroll (NEMKO) と提携し、欧州市場における電気・電子製品のENECやCBなどの安全認証も取得しています。

●浄水性能と環境性能の追求

「ウォータースタンド」は、国際的な浄水性能認証機関であるNSF Internationalの認証、米国の飲用水関連機器市場において信頼性のある認証マークであるWQA (Water Quality Association) ゴールドシールを獲得しています。

また、Coway社は韓国国際ソムリエ協会と共同で公認評価指標を開発し「水のおいしさ認証制度」を導入し、「アイコン」を含む同社の59製品がWTQ (Water Taste Quality) 認証を取得しています。

さらに、「ウォータースタンド」は環境負荷の高いフロンガスを使用しない冷却方法の採用をはじめ、節電・省エネ設計にもこだわっています。



WQA (Water Quality Association)
ゴールドシール

Environment 環境



環境負荷軽減効果／気候変動への対応（算定方法）

●削減貢献量

弊社は、浄水型ウォーターサーバーのパイオニアとして「ウォータースタンド」をご使用いただくことでの社会におけるCO₂削減インパクトを削減貢献量という指標を用いて数値化しています。

削減貢献量とは、お客様に「ウォータースタンド」を導入していただいたとき、導入されなかった状態と比較して、お客様や社会のCO₂排出の削減に貢献した量を価値としてシミュレーションしたものです。これにより、導入することでどれほどのCO₂排出削減につながるのかを評価することができます。

弊社は、「ウォータースタンド」を通じて、化石燃料を使用して生産するプラスチックボトルよりも高いエネルギー効率を実現し、CO₂削減効果を生み出しています。

なお、弊社の削減貢献量は統一規格によるものではなく、あくまでシミュレーションによる推計値であることをご了承ください。

<削減貢献量シミュレーション方法>

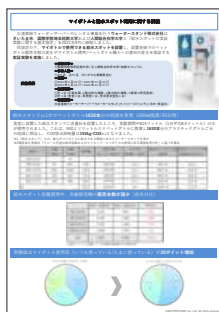
- ①ウォータースタンド1台当たりの標準ろ過流量の8割を使用した場合の抽出量を500ml入りPETボトルの本数に換算。
- ②PETボトル1本あたりのCO₂排出量を算出。
- ③①で算出したPETボトルの1本あたりの重量を500gと仮定し、100キロの距離を生産地から消費地へ輸送すると仮定しCO₂排出量を算出。
※軽油を燃料とする営業用10トントラックで積載率が不明な場合の輸送トンキロ当たり燃料使用原単位を使用。
※単位発熱量及び排出係数に算定省令の値を用いない。
- ④ウォータースタンドからマイボトルに給水した場合とPETボトルを使用した場合のCO₂排出量の差分を二酸化炭素排出抑制量として推計。

- ①・④の算出根拠：環境省「リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷分析について」
- ③の算出根拠：環境省「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver6.1)（令和8年3月）第Ⅱ編温室効果ガス排出量の算定方法」
- ④の算出根拠：環境省「上水道・工業用水道、下水道部門における温室効果ガス排出等の状況」、温室効果ガス排出抑制等指針検討委員会、資料3

●自治体での広報事例

プラスチックボトル飲料を使用した場合と、マイボトルを使用し「ウォータースタンド」から給水いただいた場合のCO₂削減効果について、シミュレーションした結果を地域の皆様と共有いただくことで脱炭素の取り組みを見える化することができます。

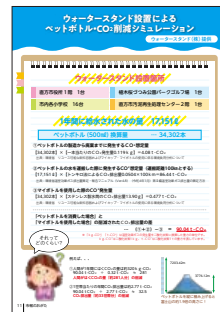
何かを我慢するのではなく、よりCO₂排出量の少ないライフスタイルへの転換に向けて、「ウォータースタンド」に限らず省エネ性に優れた商品・サービスへ置き換えを行っていくことは、暮らしの豊かさと脱炭素を両立する日本の脱炭素戦略にも合致しています。



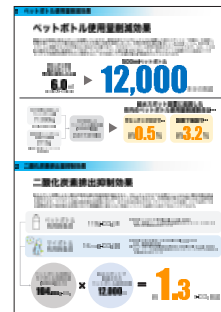
▲さいたま市との
産学官連携による調査



▲神奈川県二宮町



▲福岡県直方市



▲長野県諏訪市

資源循環・自然資本／循環→生物多様性→汚染防止

●サーキュラーエコノミー型ビジネスモデル

「ウォータースタンド」はレンタルサービスであるため、弊社が機器本体の所有権を持ち、契約期間中の定期フィルター交換や製品としての使用期間を終えた後の廃棄処分までを管理しています。

これにより、機器本体の長寿命化を実現できるほか、使用可能な部品を再利用するなど、廃棄物の削減や限りある資源の有効活用につなげています。

	2023年度	2024年度	2025年度
本体機器再生件数 ※茨城センター分のみ計上	15,475	26,025	35,575
本体機器再資源化率 ※有価物売却・マテリアル回収分	94.60%	95.90%	97.11%

※上記の廃棄物データの集計期間は4月から翌年3月までを1年度として集計・管理しています。

●業務上生じる環境負荷軽減の取り組み

56期（2023年7月～2024年6月）と57期（2024年7月～2025年6月）の弊社サイト（本社+D2Cセンター）における業務に起因するCO₂排出量（Scope1・2）を算定しました。

57期の合計は262.99 t-CO₂となり、56期の346.81 t-CO₂から83.82 t-CO₂（約24.2%）減少しました。主因は、57期に電力契約が一社に統一されたことにより、電力由来排出（Scope2）が28.9%減少した点です。加えて、車両燃料由来の直接排出（Scope1）も燃料使用の変化により6.3%減少しました。都市ガスは環境省公表の排出係数に基づき算定しています。

算定結果サマリー（t-CO ₂ ）	56期	57期	差	増減率	活動量（使用量）	56期	57期	差
Scope1 （燃料：ガソリン+軽油）	67.06	62.67	-4.39	-6.50	電力 使用量（kWh）	547,348	552,129	4,781
Scope1（都市ガス）	5.6	5.42	-0.18	-3.20	都市ガス 使用量（m ³ ）	2,423	2,346	-77
Scope1 合計	72.66	68.09	-4.57	-6.30	ガソリン 使用量（L）	22,787.95	23,352.65	2,537.70
Scope2（電力）	274.15	194.9	-79.25	-28.90	軽油 使用量（L）	5,656.25	1,782.73	-3,893.52
Scope1+2 合計	346.81	262.99	-83.82	-24.20				

【算定対象範囲】

本算定は、弊社サイト（本社+D2Cセンター）における事業活動に伴うエネルギー使用（電力、都市ガス、社用車燃料）を対象とし、期間は弊社管理の会計期間に合わせて各期とも7月から翌年6月までとする。

【算定基準】

算定・報告・公表制度（温対法）に基づく環境省公表の算定方法および排出係数を用いた。

【Scope1（直接排出）】

車両燃料（ガソリン、軽油）は、燃料使用量に対し制度係数（ガソリン2.29 t-CO₂/kL、軽油2.62 t-CO₂/kL）を適用しCO₂を算定した。

都市ガスは、供給事業者を東京瓦斯株式会社と仮定し、ガス事業者別排出係数を使用して算定した（本算定では 2.31 t-CO₂/千m³ を適用）。

【Scope2（間接排出：購入電力）】

電力は、環境省公表の電気事業者別排出係数（メニュー別係数（残差））を使用し、契約事業者の切替に応じて係数を適用した。

電力会社の切替：56期の2024年6月は日割り（6/1～6/20：20日、6/21～6/30：10日）で投分した。

（※日割りの根拠は、月使用量34,213kWh（本社）・8,698kWh（D2C）に対し、期間投分で係数を適用。）

【留意事項】

本算定はScope1・2を対象とし、Scope3（サプライチェーン排出量）は含まない。

Partnership パートナーシップ



自治体とのパートナーシップ／協定と社会実装

弊社は自治体・教育委員会・水道局と173（2026年6月末時点）の協定を締結し、マイボトルへの給水を呼びかけ、使い捨てプラスチックボトルの削減において協働しています。

ごみ問題をはじめとする社会課題は「課題となっているモノがどこから来て、どこへ行くのか」が見えないことから課題となりうると言われます。弊社は、熱中症予防に有効とされる「クーリングシェルター」などでの水分補給を呼びかけるのと同時に、地域の方との対話を通じて社会課題解決に取り組んでいます。

Voice

すべてのキャリアが今、奈良の未来へつながる

奈良営業所 田部 賢人

私は現在、奈良エリアで自治体や学校との連携を担当し、マイボトルの普及を通じて使い捨てプラスチックボトルの削減を目指す「ボトルフリープロジェクト」に取り組んでいます。

振り返ってみると、私はこれまで本当にいろいろな仕事を経験してきました。飲食店で料理人を目指したこともあります。水道工事にも携わりました。トラックドライバーとして働き、前職では、電車の車両を夜間に大型トレーラーで運ぶ特殊運送の営業として、全国を飛び回っていました。一見すると、まったくつながりのないキャリアです。でも今は、そのすべてがウォータースタンドの仕事につながっていると感じています。



「今までの経験が、全部ここで生きている」

ウォータースタンドに入社したきっかけは、家族との時間をもっと大切にしたいと思ったことでした。そこで目に留まったのが、ウォータースタンドの設置・メンテナンスの仕事です。水道工事の経験が生かせると思い、応募しました。

その後、奈良エリアへの異動をきっかけに、以前の営業経験も生かしながら、提案から設置、アフターフォローまで一貫して任されるようになりました。これまで別々の場所で身につけてきた経験が、今、一つの仕事の中ですべて生きています。家族からは「今までで一番、生き生き仕事をしている」と言われます。

自治体営業でも、始まりは「地域の困りごと」

私が自治体の皆さんと仕事をするとき、まず考えるのは、「この地域には、どんな困りごとがあるのだろう」ということです。自治体というと、物事が決まるまでに時間がかかるイメージを持たれるかもしれませんが。けれど実際に中に入ってみると、部署を超えた横のつながりがあり、「こどもたちのために」「地域のために」という思いで動いている方がたくさんいます。そうした方々と顔の見える関係をつくり、一緒に課題を考えていく。そこに私は、この仕事の面白さを感じています。

15歳の頃から続けてきたことと、今の仕事

私は15、16歳の頃から、地域のボランティア活動で伝統技術の伝承や環境保全、ビオトープの実験など、プライベートでも循環型社会につながる活動に関わってきました。だから、ウォータースタンドが掲げるミッションにも自然と共感できました。

仕事と、自分がずっと大切にしてきたことが、今は同じ方向を向いている。それも、私がこの仕事を楽しんでいる大きな理由だと思います。

こどもたちから「新しい当たり前」をつくりたい

学校に「ウォータースタンド」が設置されると、こどもたちは本当に喜んでマイボトルに水を汲んでくれます。保護者の方からも、「下校時の熱中症の心配が減りました」「毎日、重い水筒を持たせなくてよくなりました」といった声をいただきます。

私は、新しい文化をつくっていくのは、いつの時代も若い世代だと思っています。こどもの頃から、「飲み物を買う」のではなく、「マイボトルに給水する」という経験を重ねてもらえば、マイボトルを持つことが特別な環境行動ではなく、日常の当たり前になっていくかもしれません。そんな未来を、奈良からつくっていきたいと思っています。

「奈良に泊まること」が脱炭素につながる街へ

そして、もう一つ挑戦してみたいことがあります。奈良には、素晴らしい歴史や文化、社寺、観光資源があります。一方で、「日帰り観光が多く、宿泊につながりにくい」という地域課題もあります。そこで、観光地や社寺、ホテルなどを給水スポットでつなげることができないかと考えています。

-マイボトルを片手に奈良を巡り、給水しながら街を歩く-

-ホテルに泊まり、翌日もまた奈良を楽しむ-

そうやって、「奈良に泊まること自体が脱炭素への貢献につながる」ような観光の形を実現できれば、とても面白いと思います。これからも地域の皆さんと一緒に、奈良の未来に必要な「新しい当たり前」を一つずつ形にしていきたいと思っています。

学校・企業との取り組み／給水を学びと行動へ

●マイボトルへの給水を通じた教育と行動変容

弊社は「ウォータースタンド」設置先を対象とした環境教育プログラムを提供しています。このプログラムはマイボトルへの給水という日常行動と、データに基づく考察を組み合わせることで、知識理解にとどまらない行動変容と探究的学びの実現を目指しています。

環境教育支援の全体像

マイボトル用給水機設置に向けたご相談

ご導入後の伴走

01



設置場所・機種のご相談

・給水マップの作成

02



マイボトル活動
啓発ツールのご提案

・POP
・環境問題ポスター
・マイボトル作成

03



マイボトル活動
拡大プラン立案

・他校での
運営事例のご共有
(例：ボランティア)

04



マイボトル活動
実施

05



活動成果の
共有ご相談

・流用データ共有
・環境負荷軽減（プラスチックボトル・CO₂削減）効果ご提供
・オウンドメディア：ボトルフリープロジェクトでの記事掲載
・次年度の活動に向けたご相談

●全国初産学三者連携によるマイボトル用給水機設置

茨城大学内には、茨城トヨタ自動車の支援によりマイボトル用給水機「ウォータースタンド」4台が設置されています。給水機には茨城トヨタの持続可能な地域共生に対する想いを込めたラッピングが施されています。

これは全国初の産学三者連携事例であり、日常の給水行動を通じて、使い捨てプラスチック削減と行動変容、猛暑時の水分補給を後押しする取り組みとなっています。



●ゲーム・AIロボットによる出前授業 -ミライの世代と共に、潤いある地域社会を創る-

弊社は、こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同し「こどもまんなか応援サポーター」としての活動を推進していくことを2026年3月に宣言しました。未来を担うこどもたちとの対話において、ゲームやAIロボット等を活用した独自の教育プログラムの提供等を通じて、こどもたちのアイデアと行動を尊重しながら共創の機会を広げています。



Local Community / Future Generations 地域社会／ミライ世代



地域社会への貢献／イベント・共創による広がり

イベントや地域活動は、ボトルフリーを広げるきっかけになります。重要なのは、一度きりで終わらず、地域の課題に合わせて継続することです。弊社は、自治体・地域団体・企業と連携し、給水環境整備と啓発を組み合わせ、地域の中に「給水できる場所」と「続けられる仕組み」を増やします。共創の成果は、次年度以降、再現性のあるモデルとして水平展開します。

●大阪・関西万博での給水機設置

2025年4月に開幕した大阪・関西万博会場では、大屋根リング上の5か所のトイレ横にある自動販売機コーナー内にマイボトル用給水機として「ウォータースタンド」を設置しました。

万博開催期間中、「ウォータースタンド」は「穴場の給水スポット」として複数のメディアなどに取り上げていただきました。



●お米プロジェクト

お米もお水も、毎日の暮らしを支えるライフラインです。気候変動や高齢化の影響でコメ不足が懸念されるいま、私たちは“清んだミライ”の理念のもと、お客様に美味しいお水だけでなく、お米も安心して選べる環境を用意したいと考えています。

さらに、ウォーターサーバーの水は飲むだけでなく、研ぐ・炊くなど生活全般で価値を発揮します。マイページを基盤に、お客様との接点を強化し、満足度向上と業務の生産性向上にもつなげます。

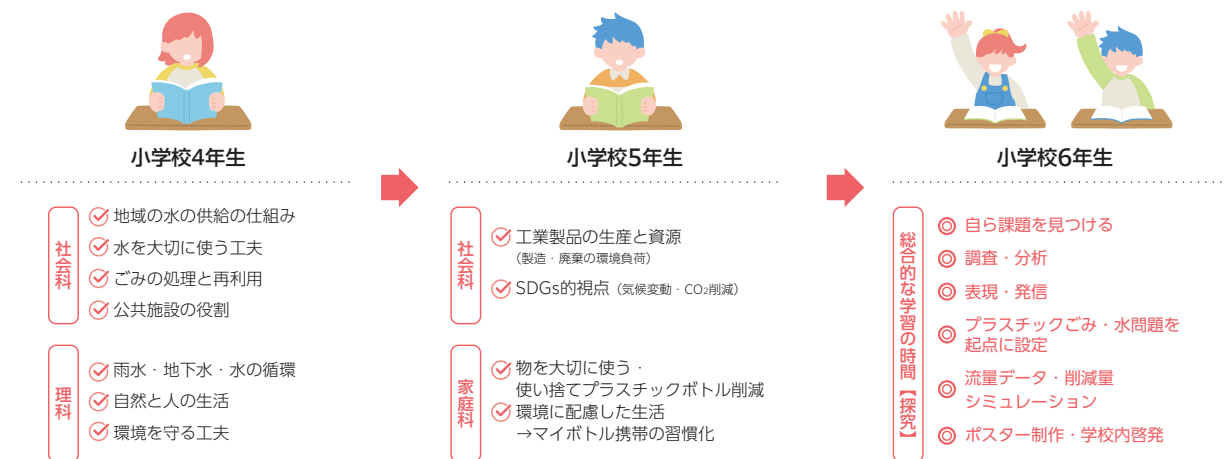
▼精米の様子



ミライの世代との対話／環境教育

●弊社の環境教育の特徴と学習指導要領との対応

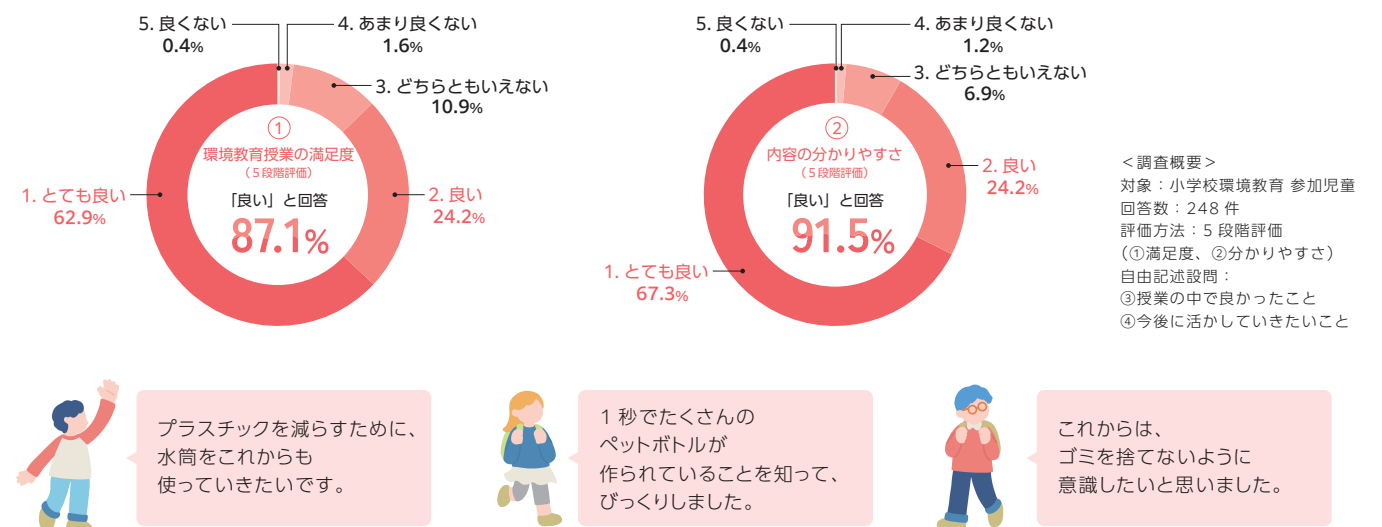
弊社の環境教育は、幅広い学年の学習指導要領に対応しています。たとえば、小学校4年生の社会科・理科における「水資源・廃棄物」、5年生家庭科、6年生総合的な学習の時間へと段階的に発展可能な体験型環境教育です。



●これまでの環境教育の成果

弊社の環境教育は、児童の理解度・満足度ともに非常に高く、実施後アンケートからは特に「マイボトルを使う」「プラスチックを減らす」といった具体的な行動意識の醸成が確認されています。体験型・参加型の構成により、環境問題を自分事として捉える学習効果が高くなっています。

環境教育実施後【アンケート結果】



会社概要

商 号	ウォータースタンド株式会社	資 本 金	5,000万円 (2025年6月期)
設 立	1969年3月31日	売 上 高	150億1,534万円 (2025年6月期)
本社所在地	埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-463	従業員数	634名 (パート・アルバイト含む) (2025年6月期)
		社 員 数	370名 (2025年6月期)
代 表 取 締 役 社 長	本 多 均		
常 務 取 締 役	近 藤 紀 行		
常 務 取 締 役	金 昌 勲		
取 締 役	福 嶋 友 宣		
取 締 役	丸 山 清 治		
取 締 役	小 岩 利 光		
監 査 役	皮 籠 石 剛		
取 引 銀 行	埼玉りそな銀行 三菱UFJ銀行 みずほ銀行 三井住友銀行 武蔵野銀行 他		

主要取引先 Coway株式会社 フォーレスト株式会社 株式会社カウネット 株式会社東急ホテル&リゾート グーグル合同会社 大日本印刷株式会社 佐川急便株式会社 ダイキンHVACソリューション東京株式会社 全国地方自治体 官公庁 他

- 受 賞 歴 / 事例紹介 / 補 助 事 業 への 採 択
- ・公益財団法人さいたま市産業創造財団 デジタル技術活用新ビジネス・新サービス開発補助金
 - ・かわさきSDGs大賞2023 特別賞「川崎市地球温暖化防止活動推進センター賞」
 - ・令和4年度彩の国埼玉環境大賞「優秀賞」
 - ・脱炭素チャレンジカップ2022 「オルタナ最優秀ストーリー賞」
 - ・令和3年度「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」受賞
 - ・2021年度日本子育て支援大賞
 - ・農林水産省・消費者庁・環境省連携 サステナアワード2020 伝えたい日本の“サステナブル” サステナアワードルーキー賞
 - ・経済産業省関東経済産業局 SDGsに取り組む中小企業等の先進事例
 - ・国立環境研究所気候変動適応センター 気候変動適応情報プラットフォーム

外 部 団 体・イニシアティブへの参加 一般社団法人 新経済連盟 一般社団法人埼玉県経営者協会 一般社団法人ダークパターン対策協会

ESG 情報

E 環境方針

弊社は、事業を通じた「ミッション」の達成と「ビジョン」の具現化を目指し、経営者から従業員まで全員が地球環境保護の重要性を認識し、環境方針を実践することを宣言しています。具体的な実践事例についてはメディア「ボトルフリープロジェクト」で公表しています。



環境方針



ボトルフリープロジェクト

S 消費者庁「消費者志向自主宣言」

弊社は消費者庁が推進する「消費者志向経営」に賛同し、その実現に向けた弊社の方針を表明しています。



消費者志向自主宣言

G ダイバーシティ&インクルージョン

弊社は、理念や目指す姿に共感し共に事業運営に携わるすべての従業員を社員持株会の対象としています。従業員の資産形成を支援するだけでなく、従業員が経営を監督することによりガバナンス体制の強化を図り、ダイバーシティ&インクルージョン推進に取り組んでいます。2025年9月には、全国の営業所の従業員が一堂に会し株主総会・社員総会を開催しました。



事業所一覧



- 北海道地方 ●札幌営業所
- 東北地方 ●青森営業所 ●盛岡営業所 ●秋田営業所 ●山形営業所 ●仙台営業所 ●郡山営業所
- 関東地方 ●石岡営業所 ●つくば営業所 ●宇都宮営業所 ●高崎営業所 ●さいたま営業所 ●深谷営業所 ●入間営業所 ●加須営業所 ●川口営業所 ●朝霞営業所 ●春日部営業所 ●千葉営業所 ●柏営業所 ●市川営業所 ●木更津営業所 ●中野営業所 ●上野営業所 ●池袋営業所 ●銀座営業所 ●府中営業所 ●世田谷営業所 ●横浜営業所 ●戸塚営業所 ●相模原営業所 ●平塚営業所 ●川崎営業所
- 中部地方 ●新潟営業所 ●富山営業所 ●金沢営業所 ●福井営業所 ●甲府営業所 ●長野営業所 ●岐阜営業所 ●静岡営業所 ●浜松営業所 ●名古屋営業所 ●岡崎営業所 ●津営業所
- 近畿地方 ●滋賀営業所 ●奈良営業所 ●京都営業所 ●大阪営業所 ●堺営業所 ●豊中営業所 ●西宮営業所 ●姫路営業所 ●和歌山営業所
- 中国・四国地方 ●松江営業所 ●岡山営業所 ●広島営業所 ●福山営業所 ●山口営業所 ●高松営業所 ●松山営業所 ●高知営業所
- 九州・沖縄地方 ●北九州営業所 ●福岡営業所 ●佐賀営業所 ●長崎営業所 ●熊本営業所 ●大分営業所 ●宮崎営業所 ●鹿児島営業所 ●沖縄営業所

事業所展開中！
最新情報はこちらから

※上記事業所情報は2026年6月時点の情報です。

沿革

- 1969年3月
資本金200万円にて株式会社サニクリーン大宮(旧社名)設立
サニクリーン東京のフランチャイジーとしてダストコントロール事業を開始
- 1986年8月
アメニティ(環境快適化)商品の第一弾として空気清浄機のレンタルを開始以降、アメニティ商品の拡充を図る
- 1995年1月
営業地域の拡大により商号を「株式会社サニクリーンジャスト」に変更する
- 1996年10月
「株式会社ジャスト」に商号を変更し、事業領域を拡大する
- 1998年6月
サニクリーン本部フランチャイズを離脱
- 1998年7月
リユーストナー事業開始
- 2000年9月
オフィス通販事業開始
- 2000年11月
加須工場、加須支店にてISO14001を認証取得
- 2004年11月
本社、さいたま支店にてISO14001を認証取得
- 2005年7月
宅配水事業(ボトルウォーター)開始
- 2011年4月
本社社屋(さいたま市大宮区桜木町4-463)完成
- 2012年2月
Coway株式会社(韓国)と業務提携し、浄水器事業を拡大
- 2013年8月
Coway株式会社(韓国)から日本コーウェイの事業を譲受
- 2018年7月
ブランド名との統一を目的とし、商号を「ウォータースタンド株式会社」に変更する
- 2019年6月
ボトルフリープロジェクト開始
- 2021年9月
使い捨てプラスチック削減とCO2排出量抑制を目的とし、ボトル式ウォーターサーバー事業から撤退
- 2023年1月
ISO14001自己適合宣言へ移行
- 2023年3月
D2Cセンター(さいたま市大宮区桜木町4-460)開設